

パブリック・コメント概要版（平成24年10月）

NO.	基本計画素案に対する意見の概要
1	<p>新町子育て支援センターは車がないといけない。各保育所も開放しているが、いつでもだれでも気軽に利用できるセンター・児童館を新設してほしい。</p> <p>市民センターが有料化されたが、子育てグループが活動しやすくなるため無料に戻してほしい。</p> <p>学校規模の適正化ではなく小人数学級の現実が求められるのではないか。</p> <p>健康づくりにも体育館利用料がかかり、遠いのでいつまでいけるかもわからない。各センターで健康のための集まりに希望しても参加できないこともあり、運営もボランティアではなく市の専門家の職員で実施を。</p>
2	<p>J R 東青梅駅北口にエレベーターの設置を。</p>
3	<p>あくまで市民本位、平和で自然豊かな青梅に住んでよかったという施策を望む。同時に国に対してきちんと意見を上げられる自治体になってほしいと思う。また、教育行政はあくまで、平等に公平にどの子にもゆきわたるようにし、青梅の豊かな自然を守り、市民の自主活動を応援する施策を望む。</p>
4	<p>J R 東青梅駅北口にエレベーターの設置を。</p> <p>J R 東青梅駅への有料自転車置き場の整備は誰も望んでいない。</p>
5	<p>公園の維持管理の推進に関して、若草公園に低年齢児用のトイレの設置を。</p> <p>文化・芸術活動の拠点となる施設が青梅市にあるのか。</p> <p>児童館をはじめとして文化施設がない青梅には若い世代や子育て世代の人たちが定着しないと思うが、開発や発展よりも子育て世代を大切にす長期計画がほしい。</p>
6	<p>計画の構成と期間について、基本計画は5年で見直し、実施計画は3年単位となっているが基本計画が変更されても以前の実施計画が継続するのはおかしいのではないか。</p> <p>再生可能エネルギーへの関心はコスト面、税金等の高負担を国民に負わせることになる。国民的合意がとれていることではない。</p> <p>個人情報保護法の弊害が現れており、個人情報保護法の制度改革や新市民に対するコミュニティ組織化が行われない限り次世代でコミュニティは崩壊する。</p> <p>保育所の待機児童対策、小公園の設置、学童保育施設の充実などで、高齢者を活用した働く場所を設ける。</p> <p>健康は意欲と責任感、社会との関わりにより保たれる。健康であれば医療費も少なくなるので、高齢者に対する働く場所の提供と年金制度改革（働くとき年金支給金額を減らすではなく、年金を納める方向）が必須では。</p> <p>農林業従事者の減少は食い止めることは経済的に無理では。観光農業への転換が必須であり、高齢者の雇用増出に頼るしかない。大型機械化も畑中より西側では無理ではないか。</p> <p>生産人口減少に対し、高齢者や女性の働き場所の確保が急務である。</p> <p>社会保障関係の増加は避けられないのではなく、健康で働き、ぽっくり往けば社会保障費は減少する。自分の食い扶持は自分で稼ぐための仕組みづくりを行うのが行政であると考え。</p> <p>青梅市内の労働人口の内、職場として市内人口と市外人口を加味した基本理念を作成すべき。市外に通勤している者は地元に対する協力は難しいと思う。</p> <p>競艇事業収益の確保に向け、舟券販売所を市役所、支所など青梅市内に設置すべきでは。</p> <p>生産緑地指定は見直す時期にある。真に農業を継続したい土地に対して指定すべき。相続が発生すれば宅地に転換されてしまう。緑地保存の為ならば市で借り上げ市民に貸す出す方式に改めてはどうか。</p> <p>交通網に関して、青梅から御岳までの電車の本数増加とミニバス巡回による駅までの交通の確保を。</p>

NO.	基本計画素案に対する意見の概要
6	<p>幹線道路の整備は良いが通過点となり商店街は寂れてしまった例は多数ある。街づくりがあつてはじめて幹線道路の整備を願う。</p> <p>ライフライン（電気）の安定供給の促進は自然エネルギーが増えた場合困難である。自然エネルギーが一時的に減少した場合、誰が補うのか、電力会社に増産する義務を負わせるのか。</p> <p>4 循環型社会に関して、廃熱利用した施設の整備など検討できないか。</p> <p>自然再生エネルギー施策への取り組みに関して、太陽光発電一辺倒になることには住民負担の増加を招くため疑問であり、太陽熱温水器の普及の方が実用的である。</p> <p>「（1）元気高齢者の生きがいつくりの促進」に関して、趣味やレクリエーションでは生きがいとはならず、社会とのつながりを持たせること働ける職場を確保することが第一であり。人の役に立ち、幾分か収入が得られれば責任感、生きがいとなる。文章の最後の行を最初にすべき。</p> <p>健康な人には資格取得支援を行い就業を増やすべきではないか。</p> <p>健康づくりは自助努力が必要であり、本当に困った場合に公助すべきではないか。</p> <p>基本方針について、林業に関して、杉や桧から落葉樹へ転換し、椎茸栽培や木炭の生産に転換し、景観の保存に努める（森林組合から青梅の杉や桧は家の建築材には適さない。反りが出るため、1.8mを超えるものには使用出来ないと言われている）。</p> <p>農業に関して、梅園の再生は不可能に近い（後継者不足、狭い土地）。観光農業に特化すべき。真に農業で生計をたてる人に支援すべき。</p> <p>現状と課題で、なぜ旧青梅市街に客が行かないかが分析できていない。旧青梅市街を車で通っても人は少ないし魅力的な店は無い、駐車料金を払ってまで散策する気になれない。駐車場の拡張と無料駐車場（最低2時間は無料位）の設置が再生計画に必須では。</p> <p>各商店街の実情はそれぞれ異なるので商店街にあった施策を。</p> <p>基本施策に関して、地域にあった観光商業振興策を打ち出してほしい。「昭和の街づくり」は破壊された現状の旧青梅市街に似合わない。旧青梅市街だけでなく、梅郷、大門、御岳、河辺等地区にあった観光商業施策を打ち出してほしい。</p> <p>PPVに関して 復興に取り組んでいないし、再生計画も出来ていない。表現を「PPVの撲滅に取り組んでいます。」に変更すべき。</p> <p>梅郷地区の山林を梅園へ転換した新規観光地を設けて頂きたい（既存の農地は何れ宅地化され、元の梅園には戻らないので、梅の里の再生は個人の庭に梅樹を植えて貰う）。林道の市道への転換を行い観光資源化を検討願いたい（天神入り林道の梅ヶ谷峠への開通、松ノ木峠に至る林道の改修等）。</p> <p>幹線道路の整備促進に関して、用地買収が進まないため、計画から何年たっても工事が進まない。青梅市としても交換用地の取得等で都・国に協力し幹線道路の早期拡張を行わせるべきと思われる。</p> <p>市道の整備に関して、梅の公園通りの梅ヶ谷峠までの開通を切望する。（多摩地域における都市計画道路の整備方針以外の道路）</p> <p>青梅から奥多摩までの電車の本数を増やしてほしい。客数に応じた連結数でよいのでせめて20分に1本を確保してほしい。</p> <p>治山と治水は両輪の輪である。連携した基本方針を打ち出して戴きたい。</p> <p>自由な働き方が選択できると言えば聞こえは良いが、真の幸福を追求するならば男女平等参画はありえないと考える。ワーク・ライフ・バランスは軽々使うべき言葉ではない。労働者に関わる各種法制度の改正が必須である。</p>
7	<p>基本計画に基づく分野別基本方針の内容をみると、「～の充実・向上に努める」、「～を図る」などの羅列になっているが、より具体的なゴールを立てることで納得できる計画となり、実績の評価が具体的かつ確実なものとなるのでは。その仕組みや評価結果をどのように扱うか定められておらず、計画の推進実績等の妥当性評価が不十分になるのでは。</p>

NO.	基本計画素案に対する意見の概要
7	<p>「活気ある産業で雇用が生まれるまち」を見ると産業分野を列記しているが、内容が古いように感じられる。サービス産業や利便性を旨とするビジネスが先進国や都市部を中心に成長しており、人びとが求めているものはより快適さにつながるソリューションビジネスの充実ではないか。</p>
8	<p>高齢者世帯よりも子育て世代を多く定着させて、青梅市を発展させる意味でも子どもや次代を担う世代に対してのまちづくりをしないと青梅市は衰体するのではと危惧している。</p> <p>青梅市は、近隣の自治体にある、ミニバス運行、児童館、温水プール、中学3年生の修学旅行の補助、文化施設等がないので対応してほしい。</p>
9	<p>将来人口について、推計人口より多い138,000人としているが、全国的に人口減少の中4000人の増加は困難ではないか。「子育て支援や職住近接のまちづくり」「様々な施策展開による人口増加を目指し」としているが具体的な記載がない。</p> <p>青梅インターチェンジ周辺の流通拠点事業を推進するため、引き続き新市街地計画ゾーンとしています。しかし、その面積も当初と比べ、半分以上となっています。東京2020の文書(P165)を見ると、産業交流拠点の整備として八王子市が指定され、青梅についての記載はない。青梅の流通拠点整備計画は事実上破綻しているのではないか。農地をなくすのではなく、保全の方向に見直した方がよいのではないか。</p> <p>土地利用に関して、黒沢採石場跡地は、今回も新市街地計画ゾーンとなっているが、市は、ここをどういうまちにしようかと計画しているのかわからない。長期計画の関係の文書には、地権者の意向もあるという趣旨の記載もある。埋め戻した土等の土壌汚染のリスクもある危険な土地についてのどのような評価をしているのでしょうか。埋め立てられている有害物質などの調査と対策の方針をもつ必要があると思います。</p> <p>青梅駅周辺の開発として、市街地活性化を推進する記載があるが、開発後の見通しをどのように考えているのかよく見えません。税金をつぎ込み、事業を行っても効果が保障されないところがあります。青梅周辺開発も十分考慮する必要があると思います。</p> <p>幹線道路整備よりも市民が身近に使う市道の整備を優先させていただきたい。基本計画には道路整備として、東京都が作成した「多摩地域における都市計画道路の整備方針（第三次事業化計画）に認定されているところを優先するとの記載がある。この道路は幹線道路です。現在進めている青梅3・5・5号線（新奥多摩街道）や青梅3・5・24号線（根ヶ布長淵線）などの整備を進めるというものです。急いで整備をする必要がなく、土地取得や建設費に多額の費用がかかる。市民が日常使用している市道が多くいたんでいて身近な生活道路の整備を優先してください。</p> <p>基本計画では「多世代・異年齢交流の複合施設となっている。児童館建設の考えがないようです。児童福祉法に基づく施設が求められます。多世代・異年齢交流の複合施設は、施設も大規模にならざるを得ないのではないのでしょうか。</p> <p>「限られた財源の中で、社会経済状況の変化や多様化し高度化する市民ニーズに対応し、より良い公共サービスを提供していくためには、効果的で効率的な行政運営をする」としています。限られた財源だからこそ、市民の安全、安心に暮らせることを優先に考えることが大切と考えます。</p> <p>健全財政について、受益者負担の適正化が強調されているが、国民健康保険税、介護保険料、後期高齢者医療保険料などの改定にあたっては、市民の暮らしを守る観点で引き上げないでもすむような対応をとってほしい。</p> <p>地元商工業支援として、無担保無保証など融資制度の拡充や投資した金額に対して経済的効果が大きい、住宅リフォーム制度の創設が必要ではないでしょうか。</p> <p>市民要望の強いコミュニティバスの運行を実現してほしい。</p> <p>中学3年生の修学旅行の補助金の新設、移動教室の補助の拡大、就学援助金の支給基準や支給対象の拡大をすすめて、父母の方の負担を軽減することを求めます。</p> <p>生活環境、道路環境の中できれいなまちづくりが望まれます。ごみのポイ捨てや飼い犬のふんの処理の問題は記述されていますが、道路の街路樹の植え込みの所の除草をしっかりとしてもらいたい。</p>
10	<p>J R東青梅駅北口にエレベーターの設置を。</p> <p>30人以下学級の推進を。</p>

NO.	基本計画素案に対する意見の概要
10	<p>青梅市としても「脱原発」の方針を決め、再生可能エネルギー（小水力発電、太陽光発電、木質バイオマス活用等）を積極的に推進してください。</p> <p>国民健康保険税や介護保険料などの値上げは止めてください。今でも負担が重くて困っています。幹線道路の拡充などのムダ使いを止めれば、財源は出てくるのではないのでしょうか。</p> <p>保育園や学童保育には希望する全ての子どもが入所できるようにしてください。</p> <p>児童館の整備をしてほしい。</p> <p>青梅市は介護認定が厳しいです。必要な介護がきちんと受けられるようにしてください。</p>
11	<p>市の仕事はまず市民の命、健康、教育福祉が最優先に、次に環境、開発です。まちの振興を計るためには子育てしやすい施策を行うべき（保育、児童館等）。</p> <p>パブリックコメントの用紙を「とりに来い」「かいたものをもってこい」はあまりにも冷たい。高齢者は、ネット、ダウンロード、ファックスも使えない。広報に折り込む、返信封筒をつけるとか、市民にやさしい行政を望む。</p> <p>市の職員の半分以上は他市町村の人を採用してほしい。青梅にない創意・工夫がとり入れられ、好感の持てる市行政になるでしょう。</p>
12	<p>財政見直しを読んでも輪郭が浮かんでこない。また、健全財政で「受益者負担の適正化」の文章について負担増の不安が生じるが、もう少しわかりやすくないか。</p> <p>自然再生エネルギーに対しては原発などにふれることなくありきたりの計画案としか思えません。具体的な計画はこれからと思うのですが青梅市の自然、立地を生かした自然エネルギーの活用を望みます。</p> <p>大型店に押されて青梅の街がさみしくなっています。活気ある街づくりに真剣に取り組んでほしい。</p> <p>学校規模の適正化の表現も中身にも不安を覚える。</p> <p>高齢化が進むなかで市立の特別養護老人ホームなどの具体策が見当たらない不安が残りました。</p>
13	<p>計画の中の「新たな産業の育成、企業の誘致を進め、地域の活性化と市民の安定的な雇用につとめる」は福祉は切り捨て、中小企業への支援はせず、市民に負担をかけ、企業誘致に多額の税金を注ぎ込み、失敗の結末にならざるを得ない。新たな道路建設や新たな開発についても同様である。今ある市民の切実な要求にフルに応える計画こそ、素案の基本とすべきである。</p> <p>「国民健康保険や介護保険については、給付と負担のバランスを配慮」でなく、“保険料は引き下げます”であるべきである。</p> <p>児童館の整備をしてほしい。</p> <p>小・中学校のグラウンドにスプリンクラーを完備してほしい。</p> <p>30人以下学級の推進を。</p> <p>学校教育に関して、教員の研修については、研究の自由を保障し、自主的研究を予算的にも支援し、研究の押しつけは排除する。</p> <p>上下水道の老朽化した配管は即刻改善してほしい。</p> <p>市長の退職金は市議同様に廃止して財政健全化に。</p> <p>市民要望の強いコミュニティバスの運行を実現してほしい。</p>
14	<p>教育センターがあまり使用されていないようだが、市民に開放し、無料で使用させてほしい。</p> <p>児童館をつくってほしい。また、各館に指導員やボランティアの補助員をきちんとつけてほしい。</p> <p>各市民センターでの講座などを開催する場合に、施設使用料を無料にしてほしい。費用負担を少しでも減らすことで参加がしやすくなると思う。</p>
15	<p>山林や川など自然あふれる青梅から再生可能エネルギーの活用、循環型エネルギーの構築と全面に出して進めるべきだと思う。青梅から国や都を動かすつもりで考えていかないと明るい未来は訪れないと思う。また、再生可能エネルギーなど広域で考えてもいいと思う。非核宣言都市と宣言している青梅市だからこそ「脱化石燃料宣言都市青梅」としてはどうか。</p>

NO.	基本計画素案に対する意見の概要
15	<p>小学生の林間学校について、青梅の小学生は移動教室で八ヶ岳などに行っていますが、地元の代表的な御岳山に行かない手はないと思うし、地域への愛着も持てるようになるのでは。</p> <p>吉野、沢井地区など多摩川や山を利用したセラピーロードや奥多摩までを含めた広域観光など個別の観光協会や団体が1つになって考える仕組みを作ってはどうか。</p> <p>地産地消で農林業再生を自然エネルギーと掛け合わせていけば長期的には出来ると思う。</p> <p>青梅の多くを占める森林についてですが、木質バイオマスや薪、ペレットなどの有効利用で長期における森林再生できるはず。先送りせずに今回の長期計画で「自然と本当に共存でき、発展できる青梅」をつくってほしい。</p>
16	<p>学校教育の項目に「安全・安心な学校づくりを進めると共に、少子化による児童・生徒数の動向を踏まえ、学校規模の適正化をはかります」とあるが、文章の意味するものは、学校の統廃合ではないか。それは小学1年生から長距離通学を強いられることになるのでは。これ以上学校を減らすべきでないと思う。</p> <p>総合長期計画は、「1市政運営を自立的かつ継続的・経営的観点を持って推進するための総合指針」ですが、地方自治法第1条の2の第1項は「地方自治体は、住民の福祉の増進を図ることを基本として、地域における行政を自主的かつ総合的に実施する役割を広く担うものとする。」と記しています。総合長期計画に基本には、何よりも住民の福祉の増進を図ることを基本とする自治体像＝青梅市像を作り上げることが必要だと思います。</p>
17	<p>小学生・中学生・高校生への支援は、児童館事業がないため、施設がないために青少年への支援がないに等しいと感じている。実際、各センターには、「施設」管理者が存在するだけで、学童児・中学生を支援する指導員は存在しない。子どもの居場所作りとして児童館にこだわることなく、新たな「青梅市らしい先駆的な子どもの居場所」を作っていきたい。そのための、市民を巻き込んだ他地域の事例報告会や学習会、そこを運営するための人員の養成講座を協働で開催し、子育て子育てに必要な市民の意識も高めて行くべき。</p> <p>新たな文化施設には、文化活動をつくる専門家や分野ごとの専門家をコーディネートする力が必要です。施設の充実と共に、活動内容の充実、市民が集まる、活気のあるものになるよう、ぜひコーディネーターする機関（先任者の集団）をつくってはどうか。市民講座等で、若者に視点をあて、その核づくりのための養成やNPOへ委託も考えられると思います。</p> <p>国の「文化芸術振興の基本方針」に準じて、市民と協働のもと、青梅市の文化政策に生かした補助金を有効に使い、担い手の育成や文化活動を発展させていく必要がある。</p>
18	<p>児童館の整備をしてほしい。</p> <p>学校教育で、「少子化による児童・生徒数の動向を踏まえ、学校規模の適正化を検討する」とあるが、具体的に統廃合があるということか。</p> <p>30人以下学級の推進を。</p>
19	<p>JR東青梅駅北口にエレベーターの設置を。</p> <p>JR青梅線勝沼踏切の立体化をお願いしたい。観光シーズンを前に休日の渋滞は激しくなっており、市内では唯一のネックになっている。JRへの働きかけなど長期的にも計画をお願いしたい。</p>
20	<p>既設の市民センターなどの施設を改造して児童館機能を増設する。これにより大人の見守りや交流も生まれる。</p> <p>児童館の整備をしてほしい。</p> <p>青梅駅周辺はレトロタウンとして観光客にも認知されているようだが、この地域に音楽、演劇、その他文化活動のプロが集まるエリアにしてはどうか。先進地の例を参考に町屋的造りの商家など保全するための支援制度を。</p> <p>永山丘陵地へ訪れる人が多いが、青梅駅、宮ノ平駅に北口があればもっと便利でしょう。</p> <p>今後、アンチエイジな高齢者が増えると思うので、自主的活動の拠点となる施設の整備、空き教室やセンターの開放やセンター使用料の無料化など活動支援をしてはどうか。</p>
21	<p>児童館の整備をしてほしい。</p>
22	<p>市営葬祭場行のバスについて路線変更をしていただきたい。</p>

NO.	基本計画素案に対する意見の概要
22	<p>市政運営の情報公開について、例えば市道根ヶ布長淵線の説明会は千ヶ瀬3・4丁目には告知があったが5丁目にはなかった。工事の影響範囲にしぼるのはどうかと思う。日常のくらしにかかわることですからたくさん声をきくようにご配慮ください。</p>
23	<p>子育て支援に関して、小学生から高校生世代をサポートする施策が弱いと思う。子育て支援センターも午後からの時間は、幼児から中学生が混在し、十分な役割を果たせていないです。市民センターに児童館的機能を充実させることが出来ないでしょうか。</p> <p>青少年リーダー育成の活動は承知しているが、継続性が弱いと思います。育成したリーダーを生かしていく場や体制が少ないと思います。青少年の地域活動と活動団体をサポートしていく体制が必要と考えます。現在のボランティア市民活動センターでは、不十分であると考えます。</p> <p>青少年吹奏楽団は、青少年の文化活動の場と考えて創立をされた部分があるのだと思うが、現在年齢の高い人が中心となっている。条例の問題かもしれないが、青少年と位置づけるのか位置づけないのか、はっきりさせ活動内容の充実を目指してはどうか。</p> <p>市民会館・美術館・郷土博物館とも施設の建て替えと市民参加の運営をより進める必要があると考えます。計画書にあるように、市民参画の文化芸術活動が展開されはじめていますので、そうした取り組みを発展させる事が大切であると思います。指定管理という施設管理ではなく、事業委託的な考えで施設を拠点としたプログラムを豊かに展開する必要があると考えます。芸術文化のワークショップや情報共有・交換の出来るアートセンター(新市民会館)が機能を発揮出来る施設になると良いと思います。</p> <p>協働の動きは、平成20年の指針策定から取り組みが前進していると考えます。しかし、計画書のように市民の関心の低さや行政担当者の意識の低さもあり、継続した研修を行いながら市民活動団体の育成体制をつくる必要がある。</p> <p>地域活動をしている方たちの高齢化、担い手不足も深刻になっており、ボランティア市民活動センターの充実が必要。現在は、昼間だけの開館で場所も狭く、高齢者・女性中心の活動サポートが中心となっている。センターの協働で運営するシステムを先行的に構築してもよいと思う。</p> <p>市民参画の協働事業推進の条例づくりを市民参加の協働で行うこと。</p> <p>協働活動の拠点となるのは、地域市民センターでもあると考える。そのためのスタッフの配置、機能の充実が必要であり、利用団体を育てる、充実させていくという視点が重要だと考える。</p> <p>現在の自治会活動では、高齢者世帯・ひとり暮らし高齢者世帯などの参加が厳しく、自治会費を高額だと考える場合もあり、会員制度の見直しが必要と思う。また、若い世代が参加しない理由として、活動内容に魅力がないという問題もあると思う。今の時代にあった活動に変化させていくため、中長期的な体制(NPO法人化・協同組合)づくりが必要では。</p>
24	<p>子育て支援について、「健やかな子どもの成長」とは親の生活が安定していること、子育てしていく時に必要なこと。例えば働き始めたい時保育園に入れること。保育料が自分達の能力にあっていること。他の子育て世代と交流できること(児童館や子育て支援センターがあること)病気になった時の医療費問題や病児保育が充実していること、など具体化をのぞみます。</p> <p>どの子にもふさわしい学力をつけるには先生方が協力し合える職場づくり、研究、仕事量の軽減が必要かと思われます。実態をぜひ調査して、先生方の増員をのぞみます。</p>
25	<p>青梅には多摩26市中、児童館はゼロ、コミュニティバスはない、市民に対する目の付けどころが逆である。あの街に住みたいという市民を思いやる行政が必要。</p> <p>企業誘致による活性化は、税金の軽減をしてまですることではない。採算が合わなくなればすぐ撤退するなど企業の論理がある。現在の状況を見れば明らかではないか。</p> <p>パブリックコメントが生かされるのか、懇談会のやり方などみていると少なからず不信がある。言わせるだけという態度が見えてならない。善処を願う。</p>
26	<p>児童館の整備をしてほしい。</p>
27	<p>パブリックコメントの期間が短かすぎる。</p>

NO.	基本計画素案に対する意見の概要
27	<p>児童館の整備をしてほしい。</p>
28	<p>青梅市内に流通する食品の放射線量を測ってください。そして、公表してください。作る方も安心、自信をもって消費者に提供できるでしょう。私達消費者も安心して食すことができ、購入できます。</p> <p>放射能検査機を設置してください。また、水道水の検査値を不検出の表示ではなく、そのままの数値を公表してください。</p> <p>住宅を整備し、安い賃料で貸し出してほしい。</p> <p>学校給食の放射能測定等も含めた内部被ばく対策。</p> <p>入院した患者さんの治療は本人、並びに家族が納得するまで入院治療をしてください。</p> <p>MR I など検査機能を備えた病院の誘致を。</p> <p>高齢者の認知症が増えていますが、市内で認知症の高齢者を持つ家族の相談対応をしている方がいる。そういった方を市が支援してはどうか。</p> <p>パブリックコメントに関して、公表の際市民からの要望は、具体的に広報に載せてください。また、市長への手紙のように、無料で郵便でも良いようにしてください。</p>
29	<p>地区間交流の視点に立った施策が必要ではないか。人口推移予測を見ると、大幅な人口増加が見込まれるのは新町地区のみとなっており、他は横ばいまたは減少となっている。全国的な人口減少、近年の経済状況では企業誘致、観光客の大幅な増加は見込めない。長期計画案を見ると、地域内交流＝地区内交流、地域間交流＝都市間交流となっており、地区間交流については言及がない一方、市と各地区の関係が強調されている。いわゆる縦割りである。地区間交流を活発化することにより、新町地区の活力を他地区に波及させて、各地区も活性化させる、つまり「内需拡大」を図るべきである。</p>
30	<p>水辺環境の（2）親水事業の充実では、多摩川（河辺地区の河川敷）がその対象になっていますが、この対象を霞川にも広げていただきたい。既に霞川は平成17年に「霞川子どもの水辺」として認可され、第三小学校の総合学習に又地域の子ども達を対象とした体験活動の場となっています。是非霞川流域の親水事業について取り上げていただきたい。</p>
31	<p>児童館の整備をしてほしい。</p> <p>御岳地域の児童の通学費の援助を。</p> <p>高齢者の特養施設を建設してほしい。</p>
32	<p>市民アンケートに基づく「総合長期計画策定のためのまちづくり政策提言」があり、青梅交通安全協会の団体等の現状と課題、提案、自由意見が記載されています。交通安全を守る一端を担う大切な交通安全協会に対し、市民の提案が生かされるよう具体的に施策推進を求めます。</p> <p>市には住宅リフォーム制度がない。個人が住宅のリフォーム、修繕や改築を行う際、地元の建設業者に発注するという条件で、地方自治体が、リフォーム費用に一定の補助を行う制度です。屋根や外壁の張替えや塗装、台所や風呂などの水回り、畳の表替えや断熱ガラスの工事など幅広い修繕や改善に補助することで、中小建設業者の仕事起こしに役立ち、地域経済に大きな波及効果をもたらす。基本方針の中に、行政と事業者当が連携する体制づくりに取組むとありますので、この制度を早期に立ち上げるよう求めます。</p> <p>市内には御岳から河辺まで多摩川が豊かに流れています。これまでも部分的に整備されてきていますが、さらに場所を選定し、河川敷に遊歩道・緑地を整備し、市民や観光客が歩いたり憩える安らぎの空間をつくるというのでは。</p> <p>児童館の整備をしてほしい。</p> <p>保育園待機児童解消に向け、東部地区に認可保育園の新設を検討すべき。</p> <p>通学費補助を。</p> <p>圏央道青梅インターに隣接する今井地区の農地を活用して、企業誘致による地域経済の活性化や雇用の確保を目指すとしていますが、整備計画の策定など進めてきていますが、現在の経済・雇用状況から、うまく行くでしょうか。農地を活用し、市民参加で、地産地消を図るような政策に転換した方がよいと考えます。</p>

NO.	基本計画素案に対する意見の概要
32	<p>企業誘致より、三ッ原工業団地を含め、市内で頑張っている中小零細企業を支援する事こそ、重要でないかと考える。</p> <p>道路について、40年以上前に都市計画決定したような道路整備を都と一体となり優先整備路線として推進しているのは疑問です。今、市がやることは、こうした幹線道路計画は中止し、市内のあちこちで、傷んだ市道・私道を整備し、市民が安心して生活できる身近な生活道路の整備を促進する事が重要と考えます。また、私道整備の規則も遵守されるよう求めます。</p> <p>デマンドタクシーの導入を。</p> <p>健全財政に関して、青梅市が市民の暮らしを守るために、これまでのような幹線道路整備など開発優先のやり方は止め、聖域をなくす行財政運営を求めます。</p> <p>競艇事業は民間に任せるなど思い切った検討を。</p>
33	<p>広報おうめで「策定に当たっては、市民の皆さんから広く意見を伺いながら…。この素案について、市民の皆さんのご意見をお寄せください。」と書いてある。広く市民の意見を伺うのであれば、応募用紙の入手方法や送付方法等に一考をお願いしたい。基本計画の中に、情報通信技術に偏重することなく、あらゆる人々が情報を享受できるよう…とあるが、市民から市への情報発信の方法も限るべきではないと考える。</p> <p>都の防災計画では、都民の自己責任が第一で、災害対策の第一義的責任と役割を区市町村に押しつけている。青梅市の防災計画の抜本見直しは、市民の自己責任を強調するものではなく、市の責任と役割をあいまいにすることなく、予防対策も含め、市民を守る防災計画が必要では。</p> <p>学校給食の放射能測定等も含めた内部被ばく対策。</p> <p>児童館の整備をしてほしい。</p> <p>待機児ゼロに向けた対策の具体化（定員増だけでなく保育園の新設必要）、希望者全員が入れないと、子育て世代の流入は難しい。</p> <p>就学旅行、移動教室など教育費の父母負担の軽減を図ること。</p> <p>30人以下学級の推進を。</p> <p>生活保護に関して適切な運用、自立支援とあるが、保種世帯の急増で受けづらくなり、保護が必要な人（世帯）が受けられない状況にならないような対策こそ必要。</p> <p>J R東青梅駅北口にエレベーターの設置を。</p> <p>青梅インター周辺の物流拠点整備開発は、当初の計画が破綻している中で進められており、問題が多い。</p> <p>市道の整備は生活道路を優先すべきであり、都市計画道路3・5・5号線、3・5・24号線は不要不急のものとする。</p> <p>市民要望の強いコミュニティバスの運行を実現してほしい。</p>
34	<p>圏央道インターチェンジ付近の開発について、景気低迷で物量が減少する中、企業誘致は難しいと思われる。かわりに「貸し農園」と「道の駅」を整備してはどうか。団塊の世代が多くなり、自然に触れ、農作物をつくり、収穫し、食べる楽しみを求めて、都心から通って来ると思う。指導者がいれば、安心して作物を生産できるし、大規模な畑で作ったものを売る場所「道の駅」も必要です。青梅や奥多摩に観光に来た人たちが新鮮な野菜などが購入でき、そこで食事が出来れば喜ばれるかと。また、貸農園や観光に来る人のために、インター付近に駐車場、その内側に緑の公園（休憩したり、交流できる場）を整備してはどうか。</p>
35	<p>駒木町の循環バスの運行本数の増加を。</p> <p>青梅は、山あり街あり、農地あり、様々な環境の中で生活しています。過疎と過密のところがあり、生活環境も様々ですが、その地域の状況にあうように児童館の設置や、どの子にも公平に通学費を出すなど市民中心の市政にするようお願いしたい。開発中心から生活中心の市政を望みます。</p> <p>大型店の進出は小売店に影響しシャッター街に変わってしまう。中小の商店の活性化のためにも、市民の立場で市政が行われるようにしてほしい。</p>

NO.	基本計画素案に対する意見の概要
35	<p>青梅市の長期計画で道路整備など計画されているようだが、長引く不況で高齢者は介護や医療に金がかかって大変なので、開発よりも生活支援の方に重点をおいていただきたい。</p> <p>若い人の就職も大変で生活保護を受ける人も多くなると思いますが、予算を削ったり自助努力を強要しないように。国や都に意見を出して市民を守っていただきたい。</p> <p>清見川の水の利用について、採石場で水を独占し、下流に流れず魚も死に、ホタルのエサ飼になるカワナにも影響し、畑に灌水することが出来ない状態であった。採石場に溜池を作らせるなど川の水を独占しないよう指導をしてほしい。</p> <p>このような意見提出は無記名でお願いしたい。また、FAXで送付であればFAX番号を入れておいてほしい。</p>
36	<p>高齢化が進む中、介護の問題は大きな課題となっている。「介護保険あって介護なし」の現状を見つめ直し、「社会全体で介護を支える」介護保険制度を貫くべきだと考える。</p> <p>財政・予算は市民のくらし・福祉にどう使うべきか、青梅市がめざすくやさしい福祉のまちの基本方向が試されています。貧困と格差が広がり深まっているなかで、人間らしい暮らし・社会で支え合う福祉にもっと予算を考えることが基本計画に明記するべきではないでしょうか。</p> <p>公共交通システムを考える上で、交通困難地域、不便地域についてその地域の市民の利便性を解決するための対策や、既存の公共交通で何が問題か、市民と公共施設へのアクセスをしやすくできるか、商店街の活性化に役立つ交通システムはいかにあるべきか、市民とどのように共同すべきか等々の問題提起のもとに議論をすることが大切。</p> <p>市民要望の強いコミュニティバスの運行を実現してほしい。</p>
37	<p>戦略的まちづくり、さまざまな分野が運動とうたうわりには、基本方針も基本施策もタテ割でしか書かれていないのはちぐはぐでは。プラットフォームを具体的に見える化した計画を立ててから、共通理解を得るための縦覧や意見募集をすべてでは。具体的な重点課題の掘り起こしに、提案、意見募集をするようなしくみを明記すべきです。</p> <p>エネルギーの転換やライフスタイルの変化、人口構成の変化に対する方策が見当たらず、10年をみおとしての計画といえるのでしょうか。課題に対する認識、施策の掘り起こしが不足している。</p> <p>公園の整備について、必要なのは市内一律の施設の整備だけではなく、ご近所とのつながりのきっかけづくりには、もっと大きな役割をはたして良いものと思います。防災面でも、イベント活用にしても、公園管理にしても、地域資源としてもっともっと積極的に活かせるように、地域と意見交換を繰り返しながら、必要とされる整備のみをおこない、利活用にもっと積極的に乗り出しては。</p> <p>市内の酒造メーカー・洗瓶ができずやむなくワンウェイ瓶や紙パックになっており、ひとつのメーカーでは難しくとも、インター近くという地の利を活かして洗瓶工場を受け入れ、2次水を農業利用する。また、障がい者を含めた雇用の場をつくれないうか。</p> <p>生ごみのリサイクルを事業者の事業と切り離さないで、地域の中で循環するしくみづくりのために、協議会をつくってはどうか。</p> <p>次代を担う子どもをみんなで育むまちとあるが、育むだけでなく、子どもたちとともに育てるまちになってほしい。子どもたちと地域を考えられる大人を増やしていかななくては、子どもたちを育てるまちにはならない。また、「青梅独自の教育」はあいまいでよくわからない表現です。地域や家庭、まちの未来を育てるために何が課題か、どうすれば解決できるか意見を出し合い、討議し、提案する教育ができなければ独自の教育とはいえないと思う。</p> <p>青梅には学校以外で子どもたちが育ち合える場が少ない。自然を利用したプレーパークのような場や企画に児童館を運営していると思えばもっと予算をつぎ込めるはず。</p> <p>観光ニーズとは何か、具体的でもないものに「応えていく」はおかしいのでは。</p> <p>農地や森林の持つ他面的な機能を健康増進や福祉、カウンセリングでの活用など期待できる。森林整備やボランティアの育成という枠組みを取っ払い、青梅の森をふくめた森林や農地を活かすためのプラットフォームをつくり、有効と思われる有識者からもアドバイスをうけられるしくみづくりをしてはどうでしょうか。</p>

NO.	基本計画素案に対する意見の概要
37	<p>水辺環境の保全や整備には、地域の理解が不可欠です。イベントや一河川に特化するのではなく、日常的に子どもたちが遊べたり、地域の人がそれぞれの身近な河川水辺で親しめる環境整備、人的整備を、地域といっしょにしていこうこそ大切だと思います。また、深く近づけない、フェンスがなくて入れない、あそべない、涼しいはずの水辺の道が炎天下にさらされてもつたいないなどの意見を聞いたり話し合ったりするテーブルが必要です。</p> <p>豊かな森林バイオマス資源の活用を促す施策を多面的に広げることこそ青梅らしい長期計画になるのでは、炭の備蓄や薪を利用した住宅の設計コンテストをして、1位は実際に建てて住んでもらいモニターとなり、さらなる改善を提示してコンテストを繰り返していく。一般住宅のみではなく、集合住宅や高齢者施設や病院など大量にエネルギー消費をする施設についても有効なのでは。</p> <p>エアコンは周りの気温を急上昇させます。地域の企業とも協力して、周辺の温度を上げないエアコンの開発をしてほしい。夏の家の中の気温は夕方帰宅時間から上昇すると苦情をエコくらしを実践している方からはたくさん耳にします。エアコン条例までとは言いませんが、1年に1日からでも、青梅の涼しい自然の風を取り入れる日を作っては。</p>
38	<p>きめ細かい原子力災害発生への備えが必要だと考えます。地域防災計画で検討、明文化なされるお考えかもしれませんが、上位計画の長期計画に一切の言及がないということでは整合性がつきません。ご検討をお願いします。</p> <p>市民参加や協働において、市民が関われる範囲で気軽にコメント（意見・アイデア）を投稿でき、人をつなげるツールとして、SNSの活用を検討してはどうか。</p> <p>「重点的に取り組むべき主要なテーマに対し、関連する分野における施策や事業を横断的に、連動させながら推進します。」とありますが、縦割り、セクショナリズムを排してより効率的・効果的・実効的に重要政策を実現するためと理解でき、大変評価したいと思います。ただ、市民、市民団体や行政、専門家などが参加して担うということではありますが、より具体的な活動のイメージが把握できないこと、肝心の分野の枠を超えて施策を連動させるその政策が明らかにされていない点が気になります。素案の段階で絞り込めていないのかもしれませんが、このぶらっとフォームを活用して重点的・優先的に実現していく政策を、どの段階で誰がどのように選択するのか、最終的に長期計画の中に明文化されるのか、実施計画での対応になるのか、この点もこの素案ではわかりません。現行計画のチャレンジプログラムに相当するものと思われそうですが、最終的な計画では、より具体的な政策を示すこと、手法についてもできる限り検討を進めて具体的に示すことを望みます。</p>
39	<p>子ども達の文化体験が非常に少ないと感じており、鑑賞教室のような体験も重要であるのではと思います。杉並区高円寺に、座高円寺という劇場があります。その取り組みの「劇場へ行こう！」という取り組みがあります。座高円寺という空間も大変、興味深く、青梅にもこんな空間があったらと思います。鑑賞教室の実施をお願いします。</p>